

日本CHRコンサルティング株式会社 ニュースレター

CHR News Letter

No.11



梅雨なんて気にしないモウー

- 今月のメニュー
- 【トピック】派遣労働者の安全配慮義務
 - 【情報】「メンタルヘルスの基礎知識4 様々なストレス要因」
 - 【お知らせ】CHRメンタルヘルスセミナー開催のご案内
 - 【データ】社会のココロ
 - 【連載】心が楽になる～MBA禅～



東京地裁が初めて派遣労働者の過労自殺を認定 判決理由は「過重業務による心理負担」

安全配慮義務、どこまで？

某光学機器メーカーに派遣されていた、業務請負会社の男性(当時23歳)がうつ病を発症して自殺したのは、過労と劣悪な勤務環境が原因として、遺族が両社に計約1億4400万円の損害賠償を求めた訴訟で、東京地裁は2005年3月31日、「不規則、長時間の勤務で作業内容や閉鎖的な職場環境にも精神障害の原因となる強い心理的負担があった。自殺原因の重要部分は業務の過重によるうつ病にある」として、両社に約2400万円の支払いを命じる判決を言い渡した。その上で「人材派遣、業務請負など契約形態の違いは別としても両社は疲労や心理的負担が蓄積しすぎないように注意すべきだった」と安全配慮義務違反を認定した。

過労死弁護団全国連絡会議によれば、実質的な派遣労働者の過労自殺を認め、派遣先、派遣元双方に賠償を命じた判決は初めてのケース。

派遣労働者の心の健康に関する現状

昭和60年に「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律(労働者派遣法)」が成立し、対象職種拡大等により派遣労働者数が増加しています。

労働者の多くがストレスを感じている中、正社員の職業性ストレス因子は「仕事の責任の重さ」や「仕事の量」に関して感じる傾向が多いのに対し、派遣労働者では、「報酬」や「仕事のあいまいさ」など、雇用形態に関連した事柄がストレス因子になりやすいようです。

図1 派遣労働者の倍率



図2 派遣労働者の不安、悩み、ストレスの源泉

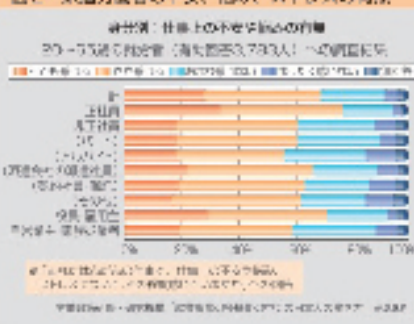


図3 派遣労働者の職業性ストレス因子



2012年度 第1回 CHRメンタルヘルスセミナー

『派遣先企業にも派遣社員から損害賠償!!』

非正規雇用者のメンタルヘルス問題、**「自社には関係ない」**と思いませんか？

紙面上部の記載のように、受け入れ企業と派遣元双方の安全配慮義務違反による損害賠償請求を認めた判例もあります。

派遣社員のストレス因子のトップは「派遣先の上司、同僚との人間関係」です。

派遣社員には一般社員のように**休職・復職制度適応がない**分、問題が発生すれば即、両社の**損害賠償問題**に発展する可能性があります。

また形態は「業務委託」でも、実質的に派遣・直接雇用とみなされる場合には同様に**安全配慮義務**が課せられ、責任は免れません。

今回のCHRセミナーでは、具体的事例をもとに受け入れ企業の該当要件、注意すべきポイントと必要な措置についてお話しします。

メンタルヘルスの 基礎知識 4

ストレスについて第2弾

様々なストレス要因

前号では、ストレス要因となるストレスには4つの種類

- 1.物理的ストレス [騒音によるストレス、騒音などによるストレスなど]
- 2.化学的ストレス [酸素の欠乏・過多、薬害、栄養の不足など]
- 3.生物的ストレス [病原菌などによる病気によるもの]
- 4.精神的ストレス [人間関係のトラブル、精神的な苦痛、怒り、不安、憎しみ、緊張など]

があるご紹介しましたが、精神的ストレスとしては、就業条件、職種によってどのような傾向がみられるのでしょうか。

今回は、非正規雇用の販売職を中心としたストレス要因について検証しながら、それぞれの状況にどのような違いがみられるのかを考察します。

「小売業におけるストレス対処への支援」厚生労働中央労働災害防止協会】より一部抜粋

雇用形態とストレス要因 ～販売職編～

厚生労働省による「小売業におけるストレス対処への支援」の調査によると、男性の**正社員**では、**仕事の量的負担**が高い人が**15.4%**と非常に多いことが特徴的ですが、**非正社員**では、**身体的負担**の高い人が**29.3%**と高くなっています。

- 「自分で仕事の順番や、やり方を決めることができない」
- 「自分のペースで仕事が出来ない」

といった**仕事のコントロール感が無い**ことによるストレスが高い人も**10.3%**で、正社員の**2倍**近くなっています。女性の場合、男性とは逆に非正規社員で仕事の量的負担が高くなっています。

身体的負担が高い人は男性同様に27.1%と高くなっています。

このことから、非正社員においては、男女ともに商品の移動や搬入、陳列の作業、立ち仕事など**身体的作業**が課されていて、かつ仕事に対する**自由度が低い**ことがうかがわれます。

また、修飾要因として非正社員では男性、女性ともに、**上司の支援が低い**ことが特徴的です。男性の非正社員では同僚の支援も低いことがわかっています。

対応のポイント 以上のことから、販売職のストレスへの対応を考える場合には、雇用形態の違いによる業務内容の違いとそこから生じるストレスの違いなどにも配慮することが重要と考えられます。

ただ、近年では非正社員の中には、正社員と同程度の業務量や責任を課されている場合も多く、雇用区分を超えて、それぞれの事業所での特徴や問題点などもよく把握したうえで、業務内容に応じた対応を考えていくことが重要です。

このような方に
おすすめです

派遣社員・非正規雇用・現場請負の メンタルヘルス問題の対応を指南します！

- 派遣を採用している企業の人事労務担当者様
- 派遣会社の営業・人事労務担当者様
- 自社の社員が顧客先で業務を行っている管理監督者、経営者様
- 様々なケース対応に必要な社会保険労務士の方
- その他、職場のメンタルヘルス問題にご関心のある方

テーマ 非正規雇用者のメンタルヘルス問題



■ 講師
社会保険労務士
エイチ・アール・エム・オフィス社会保険労務士法人
代表社員
中尾 文彦 氏

日時 2012年 6月26日(火)
14:00-17:00(開場:13:30)

参加費	参加費		お申込期間
	CHR会員	無料	6/25(月)
	一般申込	5,000円	6/26(火)

会場 エル・おおさか
5階501号室
(大阪府立労働センター)

大阪市中央区北浜東3-14
(京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」より西へ300m)

※お申し込み

<http://www.chr.co.jp/seminar01>
TEL.06-6948-8111

ポイントはここだ！専門家パネルディスカッション&質問大会

■ コーディネーター	日本CHRコンサルティング(株)会員 精神科専門医	渡辺 洋一郎
■ パネラー	社会保険労務士	中尾 文彦 氏
	産業区(三妻電気伊丹販売所 伊丹地区統括産業界)	萩原 聡 氏

データから読み解くメンタルヘルスの取り組み

社会のココロ

選択の自由な社会における非正規雇用事情

1990年前後から、必ずしも正規雇用でなくてもいいという風潮と企業の目先の効率を求める経営観念が一致し、雇用形態が多岐になりました。

企業は非正規社員を増加することで必要なサービスを提供。特にサービス業の生産拡大を支えてきたのは非正規社員とされています。

非正規社員の割合はサービス業がもっとも多く、次いで小売業、医療福祉、製造業や建設業は低くなります。

平成元年に80.9%だった正規社員の割合は平成22年には65.7%に減少。一方平成元年に19.1%だった非正規社員の割合は34.3%に増加。

正規男性社員の年間収入は、500万～699万が最も多く20.9%ですが、非正規男性社員は、200万未満が57.0%という現実があります。

ライフスタイルにあわせた働き方であるというメリットと正社員との処遇の差というデメリットについて働く側も現実を認識した上でのキャリア形成が重要です。

資料出所
雇用政策研究会「持続可能な活力ある社会を実現する経済・雇用システム」2010年7月

非正規社員を選択した理由として

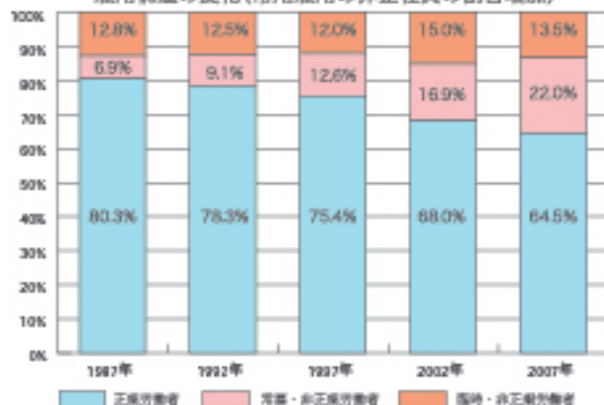
▽ポジティブなもの

男女:「自分の都合の良い時間に働ける」 男性:「正社員として働ける会社になかったから」
女性:「家計の補助、学費のため」

▼ネガティブなもの

「専門的な資格や技術を活かせるから」という理由が30%の男性にみられますが非正規社員である理由にはならないかもしれません。

雇用構造の変化(常用雇用の非正規社員の割合増加)



Junity's 心が楽になる MBA 禅

成長スピードと本質的成長はアンビバレント

一生かかって、小さい頃になりたかった職業に近づけばいい。

スピードのみを追うと、もやしになるか根腐れする

何を重視するかで、選択するものが変わります。

「手っ取り早さを求める人」
・すぐに結果が出る系のノウハウ本
・人間関係より自己満足
・短期利益が大きいこと

「本質的成長を求める人」
・自分にとって不偏の強みを育てられるような機会
・相手が喜ぶことに時間を使う
・リスク回避ではなく、長期的な最適解をめざす

ただし、本質的成長路線に入ると成長スピードに加速度がつきます！

「自分探しをしている」は、じっくり成長思考のように見えて、実は一番楽に効率良く働ける生き方を求めているので根本は急成長思考。



募集メンタルヘルス Q&A

なかなか聞けない、どこに相談したらわからないといった職場のメンタルヘルスの疑問にお答えいたします。
soudan@chr.co.jp まで、ご相談内容をお送りください。こちらのコーナーで無償にてご回答いたします。企業情報、個人情報などはふせてご紹介いたしますのでご安心ください。

【編集後記】

暑い夏に向けて日に日に日差しが強くなってきました。梅雨の列島に台風も近づいています。変化に富む自然や四季は私達に厳しさと恵みも与えてくれます。

コントロールできない大きなエネルギーと共存しながら今、私達は本当の幸せについて本質を見つめ直す時期にいますね。

心の春がくるためには、過去の爽りの秋の果実にしがみつくとなくみんなで厳しい冬を乗り越えていきましょう！！

(編集者:中西史子 info@chr.co.jp)